

令和 7 年 度  
事 業 報 告 書

学校法人富山国際学園

## 目 次

1 法人の概要	
(1) 基本情報 .....	1
(2) 建学の精神 .....	1
(3) 学校法人の沿革 .....	1
(4) 設置する学校・学部・学科等 .....	1
(5) 学校・学部・学科等の学生数の状況 .....	1
(6) 収容定員充足率 .....	2
(7) 役員の概要 .....	2
(8) 評議員の概要 .....	2
(9) 教職員の概要 .....	2
2 事業の概要	
(1) 主な教育・研究の概要 .....	3
(2) 中期的な計画及び事業計画の進捗・達成状況 .....	9
3 財務の概要	
(1) 決算の概要 .....	10
(2) その他（有価証券の状況等） .....	14
(3) 経営状況の分析、経営上の成果と課題、今後の方針・対応方策 .....	15
4. 学校法人の業務の適正を確保するための体制（内部統制システム） の整備及び運用状況の概要 .....	16
5. 附属明細書 .....	18
別紙	
(1) 役員等一覧 .....	19
(2) 卒業の認定に関する方針等 .....	20

## 1 法人の概要

### (1) 基本情報

- ① 法人の名称 学校法人富山国際学園
- ② 主たる事務所の住所、電話番号、FAX 番号、ホームページアドレス等  
富山県富山市願海寺水口 444 番地  
電話 076 (436) 5139、FAX 076 (436) 5444、HP アドレス [www.tii.ac.jp](http://www.tii.ac.jp)

### (2) 建学の精神 「高い知性と広い教養、健全にして豊かな個性を備えた人材の育成」

### (3) 学校法人の沿革

昭和 38 年 1 月	学校法人富山女子短期大学設立認可
昭和 38 年 4 月	富山女子短期大学開学
昭和 39 年 4 月	富山女子短期大学附属高等学校開校
昭和 52 年 4 月	富山女子短期大学附属みどり野幼稚園開園
平成元年 12 月	学校法人富山国際学園寄附行為変更認可
平成 2 年 4 月	富山国際大学開学
平成 4 年 4 月	富山国際大学附属高等学校に校名変更
平成 12 年 4 月	富山短期大学及び富山短期大学附属みどり野幼稚園に校名変更

### (4) 設置する学校・学部・学科等

- ① 富山国際大学 現代社会学部 現代社会学科  
子ども育成学部 子ども育成学科
- ② 富山短期大学 食物栄養学科  
幼児教育学科  
経営情報学科  
健康福祉学科  
専攻科食物栄養専攻
- ③ 富山国際大学附属高等学校 全日制課程普通科
- ④ 富山短期大学附属みどり野幼稚園

### (5) 学校・学部・学科等の学生数の状況

(令和 7 年 5 月 1 日現在)

学 校 名		入学定員	入学者数	収容定員	現 員 数
富山国際大学	現代社会学部	120	86	490	418
	子ども育成学部	90	88	370	365
富山短期大学	食物栄養学科	80	66	160	132
	幼児教育学科	80	75	160	134
	経営情報学科	110	87	220	193
	健康福祉学科	40	18	80	45
	専攻科・食物栄養	15	12	30	20
附属高等学校	全日制課程普通科	250	311	750	880
みどり野幼稚園			13	110	75

(6) 収容定員充足率

(毎年度5月1日現在)

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
富山国際大学	103.1	104.1	99.5	96.2	91.0
富山短期大学	102.3	99.4	92.5	83.4	80.6
附属高等学校	99.6	101.5	110.7	112.9	117.3
みどり野幼稚園	74.5	70.0	68.2	71.8	68.2

(7) 役員の概要 (令和8年3月31日現在・別紙「役員等一覧」参照)

- ① 定数 理事 5人以上10人以内  
監事 2人以上3人以内
- ② 現員 理事 8人  
監事 3人

(8) 評議員の概要 (令和8年3月31日現在・別紙「役員等一覧」参照)

- 定数 6人以上15人以内
- 現員 15人

(9) 教職員の概要

(令和7年5月1日現在)

		教 員 数				事 務 職 員
		学長等	本 務	兼 務	計	
学園本部					4	
国際大学	現代社会学部		19	20	39	
	子ども育成学部		18	17	35	
	小 計	1	37	37	75	
富山短大	食物栄養学科		10	8	18	
	幼児教育学科		9	8	17	
	経営情報学科		9	7	16	
	健康福祉学科		7	8	15	
	小 計	1	35	31	67	
附属高校		1	47	18	66	
幼稚園		(1)	7	8	16	
合 計		4	126	94	224	
					50	

※ 兼務教員 学内の兼務者を除く数で示す。

## 2 事業の概要

### (1) 主な教育・研究の概要

- ① 「卒業の認定に関する方針」、「教育課程の編成及び実施に関する方針」及び「入学者の受け入れに関する方針」

別紙「卒業の認定に関する方針等」参照)

### ② 主な事業の概要

#### i 学園本部

##### a 学園情報教育研究センターの取り組み

令和3年度から5年計画で実施している学園情報ネットワーク刷新事業の最終年度として、令和7年度は東黒牧ファイルサーバの呉羽学園ファイルサーバへの統合、東黒牧物理サーバの更新、NAS（ネットワーク接続ストレージ）増強を行い、整備計画を完了しました。

業務効率化事業として、Kintone（キントーン）を用いて開発済みのワークフローシステムの安定運用のための作業を行いました。年度初めの人事異動に対応した各種マスタの修正、新規ユーザ作成、退職ユーザ削除などの業務に加え、総務部門からの細かな要望に対応しました。また、従来大学だけで運用されていた科目間流用申請書ワークフローについて、令和7年12月から短大でも運用開始しました。

サーバと通信機器に対する情報セキュリティ対策として、脆弱性診断を2回実施しました。学園教職員の情報セキュリティスキル向上のため、eラーニングと2回の標的型攻撃メール訓練を行いました。その他、他大学での重大インシデント発生の際には、注意喚起を随時行いました。

社会における生成AIの浸透を受けて、大学と短大では生成AI利用する際の注意点を周知しました。そして、学園本部・大学・短大の教職員を対象として生成AIの活用状況に関するアンケートを実施しました。その結果、回答者73名のうち75.5%が生成AIを仕事で活用していることがわかりました。また、アンケートで得られた活用事例を学園内に共有しました。

##### b 新駅（願海寺）設置に向けた取り組み

前年度に引き続き、呉羽キャンパスの交通アクセスを改善するため、期成同盟会と協力し、新駅設置に向けた取組みを進めました。12月には、期成同盟会と合同で、富山県と富山市、あいの風とやま鉄道に対し、要望書の提出を行いました。

##### c 学園ウェブサイトのリニューアル

デザインやコンテンツが古くなっていた学園の公式ウェブサイトを刷新し、見やすく必要な情報にたどり着きやすいサイトにリニューアルしました。従来の掲載情報に加え、「お知らせ」「採用情報」「寄付金募集」の各ページのほか、「お問い合わせ」フォームを追加するなど、内容の充実も図りました。

#### ii 富山国際大学

##### a 教育・研究活動

###### (a) 授業改革等の推進

レポートループリック、プレゼンテーションループリック、卒業論文ループリックの運用を進め、評価の標準化を図り、併せて成績評価基準（評価内容、評価、Grade Point）に基づく、厳格かつ厳正な成績管理の運用を行いました。また、全学学生を対象に、学生の数理・データサイエンス・AIへの関心を高め、かつ、数理・データサイエンス・AIを適切に理解し活用する基礎的な能力を育成することを目的とし

た、数理・データサイエンス・AI教育プログラムに取り組みました。

(b) 教育研究活動

国の科学研究費助成事業をはじめとして、36件、約33百万円の外部資金を獲得するなど、研究の推進に努めました。

b 地域貢献・国際交流活動

(a) 公開講座

令和7年度、エクステンションカレッジ特別講演会を市民プラザで開催(2/20)しました。『やなせたかしと作品を描く日々』をテーマに、株式会社やなせスタジオ代表取締役の越尾正子氏にご講演いただき、関係者を含め約130名の方々にご参加いただきました。

エクステンション・カレッジ語学講座も開講し、オンラインによる英語講座には前期6名、後期7名の計13名(のべ数)が受講しました。

(b) ボランティア活動

東黒牧キャンパスでは、住環境研究ゼミによる地域活性化、海王丸総帆展帆ボランティア、富山県青年議会本会議への参加、園児らを対象にしたTUINSサッカー大会などを通じて、学生が地域貢献活動を実施しました。

呉羽キャンパスでは、学生の地域貢献、ボランティア活動への参加意欲が高く、「ちよっこおいでまこども食堂キャンパス」は何年も継続的に取り組むことで、地域の高い信頼を得ています。また、1年生の「地域社会参加活動」を中心に活発なボランティアが行われ、富山市立呉羽小学校のクラブ活動ボランティアには、1年生を中心に73名の学生の応募があり、のべ319名の学生が13のクラブ活動へ積極的に参加して児童の活動をサポートしました。サークルやゼミ単位での活動も盛んでTUINSプログラミング教育研究会は小学校のプログラミング教育の指導に参加するとともにドローン教室も行いました。さらに松山ゼミでは、「SDGs すぐろく in 富山市」を制作し、富山市のSDGsウィークに参加しました。包括連携協定を締結している南砺市や射水市の他、高岡市、砺波市などでも小中学生学習支援事業の支援員として意欲的に活動しています。

また、黒部市との包括連携協定締結による事業実施では、「くろべ市交流センター・あおーよ」の開館イベント等に両学部の学生が参加協力し、大変好評を得ました。

(c) 国際交流活動

4月および9月に在學生を対象とした海外留学・研修プログラム説明会を実施し、担当教員による説明を通じて、学生の参加意欲の向上と渡航支援に努めました。

海外派遣については、英語国際キャリア専攻2年次生の必修科目「グローバルスタディーズ」において、カナダのレスブリッジ大学付属英語学校へ3名の学生が4か月の留学を行いました。

また、現代社会学部環境デザイン専攻では「実習Ⅲ」としてイギリス研修を実施し、5名の学生が参加しました。ロンドンやグラスゴー等の各都市を訪問し、授業で学んだ世界の建築・住宅史や現地の住宅事情を実地に学びました。

3月の異文化研修では、韓国の協定校3校を6名の学生が訪問し、現地学生との交流を通じて日頃の語学学習の成果を確認する機会となりました。

子ども育成学部においては、台湾高雄市の中学生やマレーシアのマラ工科大学教育学部の学生、カナダのレスブリッジ大学の学生とのオンライン交流を行い、1~3年生の約150名が参加しました。交流では各自の端末を用いて1対1のやり取りを楽しんだほか、特にマラ工科大学教育学部の学生とは、将来教員を目指す者同士として、互いの関心がある教育課題について意見を共有しました。

日本文化理解を目的とした留学生対象の県内研修では、6月に上市町の大岩山日石寺や、立山町の立山博物館、まんだら遊苑等を訪問しました。立山サンダーバードやアルペン村での散策、ささら屋立山本店でのせんべい焼き体験を通じ、富山県の伝統や自然に触れる機会を設けました。

また、2025年1月には留学生総会を実施し、留学生と日本人チューターが親睦を深めるなど、学内における多文化共生と相互理解を促進する活動を展開しました。

#### c 課外活動

ボート部は、第103回全日本ローイング選手権において軽量級女子ダブルスカルで優勝、男子舵手付きフォアおよび男子軽量級ペアで第3位に入賞するなど、国内最高峰の大会で優れた成績を収めました。さらに、第52回全日本大学ローイング選手権大会では、女子ダブルスカルおよび男子クォドルプルの2種目で優勝、男子舵手付きフォアで第2位に入賞するなど、複数種目において優勝および上位入賞を果たし、全国大会において顕著な成果を挙げました。また、陸上競技部は、男子円盤投、ハンマー投、砲丸投において北信越大会で上位入賞を果たし、着実な競技力向上を示しました。さらに、硬式野球部は、年度当初の目標であった1部リーグ昇格および残留を達成し、安定した戦績を収めました。

#### d 各学部の状況

##### (a) 現代社会学部

学生たちは各種の海外渡航プログラムを活用して海外で学びました。また文部科学省による認定を受けた「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」では多くの学生が認定を受け、社会のニーズに応える情報技術を習得しています（「(2) 教育・研究活動、②数理・データサイエンス・AI教育プログラム」参照）。

地域活動では、昨年度に引き続き南砺市のSDGs未来都市推進事業と連携した取り組みを行ったほか、各専攻の実習、研究室での活動、「夢への懸け橋事業」等で、地域の人々の協力も仰ぎながら、教員と学生が丸となって地域の課題解決に取り組みました。

##### (b) 子ども育成学部

学生の多くは、入学時から、中には入学以前から、明確な目的意識をもち、大学での学びに主体的に向き合っています。今年度も、受け身的な講義の受講に満足することなく、学生同士コミュニケーションを取りながら、協働的な学びを自ら深めようとするなど、常に高い意欲をもって授業に参加する姿が見られました。1年生は、「学外活動の日」として前期水曜午後、後期木曜午後は授業を設定せず、地域社会参加活動などのボランティア活動や観察実験アシスタントなどの学外活動を奨励し、多くの分野の学びを経験することができるようにしました。小学校のクラブ活動などには、多くの学生が積極的に参加して、児童理解や指導力の向上に努めました。また、2年生では介護等体験、保育所実習、施設実習、ソーシャルワーク実習、また、3年生では小学校教育実習、幼稚園教育実習、ソーシャルワーク実習に、4年生では、さらに応用力を高める保育所実習、施設実習と、着実に実践力を伸ばすとともに、高い専門性を身に付ける学びを展開しました。教員免許、保育士資格、社会福祉士受験資格取得につながる実習のみならず、自主的・主体的にインターンシップに参加した学生、英語学習パートナーや外国人支援スタッフなどの県教委の事業を活用して、学校現場の実情を目の当たりにしながら、大学で学んだことを生かして活動する学生が増えました。

加えて、国際化・情報化の対応・推進の観点から、日本語教育支援活動の学生フィールドワークやマレーシアや台湾の学生との交流、多くの授業におけるICT活用能

力を高め活動の展開、情報教育の最先端の研究者を招聘しての富山県寄附講義も行いました。

### iii 富山短期大学

#### a 教育・研究活動

##### (a) 授業改革等の推進

多様な学生へのよりきめ細やかな学修支援を行うことを目的に、令和8年3月26日に「障がい学生支援委員会」を開催し、配慮を要する学生や、車椅子使用の学生をはじめ肢体不自由学生が学びやすい環境の整備に努めました。特に今年度は車椅子を使用する学生が入学したことから、学生生活をスムーズに過ごせるよう、移動範囲を考慮し、通学時の教室移動の補助や専用のお手洗いを確保するなど、教職員がチームを組んで支援体制を確立しました。

更に、AI・データサイエンスの技術を活用し、課題解決を図ることのできる人材の育成に努めるとともに、IT関連教育の充実に向けた体制を整えました。

##### (b) 教育研究活動

国の科学研究費助成事業、富山第一銀行奨学財団研究助成など、6件3百万円弱の外部資金獲得、研究紀要第62巻発行、学長裁量経費助成研究など研究活動推進に努めました。

#### b 地域貢献・国際交流活動

##### (a) 公開講座

呉羽キャンパスをはじめ7会場で10講座18テーマを開講し、受講者は延べ853人（前年789人）となりました。

##### (b) ボランティア活動

学生の人間力向上を目的として、本学独自のWebボランティアシステムを活用し、活動への参加を推奨する取組みを実施しました。令和7年度は、富山マラソンなどの依頼件数が187件に対し94件の活動に学生が参加しました（昨年度 依頼件数192件 参加件数94件）。また、学生はサークルやゼミ・学生有志を集い、ボランティア活動等普及支援事業「+One ともに」に6団体（サークル、ゼミなど）が申請し、すべての団体が実施しました。

#### c 各学科の状況

##### (a) 食物栄養学科

卒業生61名に対して50名が栄養士の資格を取得したほか、3名が栄養教諭二種免許を取得しました。日商PC検定3級（文書作成）の検定試験には、8名が合格しました。栄養士実力認定試験においては、成績優良者2名が表彰されました。産学連携協定を結んでいるJA全農とやまとは、食品ロス削減を目的に、食べられるのに捨てられがちな野菜の部位を使った手軽に作れる美味しいレシピ集を作成しました。また5月、にいかわ圏海藻による環境保全活動と産業化プロジェクト協議会と産学連携協定を締結し、富山湾で生産されたがごめ昆布等海藻を使ったレシピの考案や商品開発を行いました。栄養士養成や研究活動の実績が評価され、竹内教授が栄養功労者厚生労働大臣表彰を受けました。

##### (b) 幼児教育学科

卒業生56名に対して55名が保育士資格、56名が幼稚園教諭二種免許を取得しました。就職者全体の約96.3%が専門職に就職し、人材不足が叫ばれている保育分野と

福祉分野に巣立ち、地域に貢献しました。また、1名が国際大学子ども育成学部に編入学しました。本学科に設置されている幼児教育センター主催による「第52回幼児教育研究会」を開催しました。県内の保育関係者に多数参加いただき活発な情報・意見交換が行われました。また、地域の子育てを支援する活動にゼミやサークルに所属する多くの学生が参加しました。

(c) 経営情報学科

学生の就職活動に対するモチベーションを計画的に高めるため、1年生の11月から地元有力企業の協力を得て、「学内企業研究会」や「学内企業説明会」などを開催しました。また、英語や小論文、面接などの特別指導を実施することで、富山大学などの編入学試験に9名が合格しました。これまで以上に地域社会に密着しながら、学生の多様な進路選択への支援に取り組み、専門的な知識と技術を身につけた人材を育成します。

(d) 健康福祉学科

卒業生26名全員が介護福祉士受験資格、医療的ケア基本研修修了、介護職員初任者研修の資格を取得したほか、介護予防運動トレーナー2名、ウォーキングトレーナー2名、ケアクラーク（介護事務）9名がそれぞれ専門資格を取得いたしました。

11月の「介護の日」イベントでは4年連続でサブタイトル表彰を受け、学生考案の健康体操を披露するなど介護の魅力発信に努めたほか、2月の総合的研究発表会では、呉羽地域の介護施設や民生委員の方々から多角的な助言をいただくなど、地域連携を通じた実践的な学びを深めることができました。

(e) 専攻科食物栄養専攻

専攻科2年生8名中7名が、学位試験に合格し(独)大学評価・学位授与機構より学位(4年制)を授与されました。昨年度の専攻科を修了した9名が管理栄養士国家試験を受験し、全員合格という素晴らしい結果を残しました(全国合格率47.6%)。専攻科2年生の8名全員が、東京で開催された第72回日本栄養改善学会学術総会(全国大会)にて、学会発表を行いました。

iv 付属高等学校

a 教育研究活動

(a) ICT (Information Communication Technology) 教育の推進

平成23年度より15年間(本年度で16年目)にわたって、県内でも最先端のICT教育を展開しています。生徒全員がiPadを所有するほか、高速無線LANや各教室へのプロジェクター2台設置、3Dプリンター、ロボットなどの多種多様な教育環境を整備し、データサイエンス教育、プログラミング教育、人工知能教育を実践しています。令和7年度高等学校DX加速化推進事業(DXハイスクール)に採択され、デジタル等成長分野を支える人材育成を行っています。

(b) 国際交流活動の推進と学校のグローバル化

令和7年度は、本校から2カ国(アメリカ、韓国)に78名の生徒を派遣しました。また、3カ国(アメリカ、韓国、ニュージーランド)の3校から51名の生徒が本校を訪問し、国際交流が活発に行われました。また、富山市JICAかめのり財団協働事業インドネシア国際協力体験学習に本校から生徒6名が参加しました。

令和7年7月10日～7月26日に、1学年国際英語コースの45名の生徒が第32回アメリカ語学研修に参加し、ホームステイをしながらネイティブの授業等を受講しました。令和7年8月3日～8月14日に、2学年国際英語コースの32名の生徒が韓国語学研修に参加し、ソルブリッジ大学で英語の講義を受け、大田外国語高校の生徒

と交流をしました。

令和7年4月15日～4月22日に、ニュージーランドの姉妹校・パ克蘭ガカレッジの13名の生徒が来校、令和7年7月2日～7月7日に、アメリカの姉妹校・チェスタートン高校の12名の生徒が来校、令和8年1月21日～1月22日に、韓国の姉妹校・大田外国語高校の26名の生徒が来校しました。それぞれ本校の生徒宅にホームステイし、授業を受け、華道体験、書道体験、企業訪問などを通して異文化交流を図り、異文化を理解しようとする態度を身につけ意欲的に交流をはかりました。

2学年の海外研修旅行では、令和7年12月15～12月19日に、106名がシンガポール、44名が韓国、17名がオーストラリアを訪問しました。コースを問わず、生徒の目はますます海外に向いている様子が顕著に伺えます。

#### b 課外活動

文化部は、新聞部が第49回全国高校総合文化祭の年間紙面審査で優良賞を受賞し、第72回富山県高校新聞コンクールでは37年連続となる最優秀賞を受賞しました。放送部は、第72回NHK杯全国高校放送コンテストで研究奨励賞を受賞しました。家庭部は、第19回全国高校生食育王選手権大会で総合3位の成績を収めました。ユネスコ部は第49回全国高校総合文化祭の弁論部門で奨励賞を受賞しました。運動部では、バドミントン部が全国高等学校総合体育大会の女子個人シングルスで全国ベスト8、女子団体では全国ベスト32の成績を収めました。水泳部は第48回全国JOCジュニアオリンピックカップ夏季水泳競技大会のシンクロナイズド3m飛板飛込で優勝しました。個人登録の選手では体操、スケート、ボクシング、スキーが全国高等学校総合体育大会に出場しました。校外でのボランティア活動では、24時間テレビの街頭募金活動や富山マラソンのボランティアを代表に、サマーボランティアや高齢者向けの「スマートフォン教室」など様々な活動に、延べ約120名の生徒が積極的に参加しました。

#### v みどり野幼稚園

##### a 教育研究活動

###### (a) 幼稚園型認定こども園としての取り組み

認定こども園への移行後7年目となり、2号認定の子どもは定員を超え、新2号認定（広域入所及び短時間就労等）の子どもも増えていきます（令和7年度末には2号認定22名、新2号認定13名）。早朝や閉園時間近くまでの保育を行う子どもが次第に増え、保育者の配置や落ち着ける空間の確保に工夫しながら保育にあたりました。1号認定の子どもの預かり保育も延べ2,866人（R6：3,026人）の利用となり、保育ニーズの多様化に応ずる体制づくりがますます必要となっています。

満3歳児の入園ニーズに対応するため、令和5年度から受け入れ枠を12名としています。令和7年度は受け入れ枠の拡大に向けた職員体制の整備を検討しましたが、人員確保が難しく従来の枠を維持する結果となりました。なお、近年のニーズに合わせて、令和8年度から利用定員を変更（1号90→75人／2号20→25人）することとしました。今後も職員体制の充実を図り、園児確保に努めたいと考えます。

###### (b) 子育て支援・保護者との連携

全ての保護者が保育参加の機会を得ることができるよう、個々の事情に応じた柔軟な実施に努めました。個別の相談には、担任をはじめ、主幹保育教諭や副園長が対応し、専門機関との連携をとりながら、継続的な支援を行いました。また、歴史ある「父親の会」から名称変更した保護者の集まり「ペンぎん組」を中心に、園庭整備や遊び大会が実施されました。親子がゆったりと関わり合いながら楽しむ体験は保護者からも好評であり、有意義な親子交流の場となりました。感染症流行時には、学校医

や薬剤師と連携し適切な対応をとるとともに、電子配信システムを活用した迅速な情報共有に努めました。また、引き渡し訓練や消防訓練を実施し、その様子をブログ等で可視化することで保護者の安心感につなげました。

地域の未就園児親子に対しては、親子サークルを年 30 回開催し、子育て支援を行いました。サークル講師として在園児や卒園児の保護者の協力を得ることで、保護者と一体となった支援を展開することができました。

◎延べ 739 人参加 (R6 : 674 人)

内訳 : 保護者 366 人、児童 373 人 : (R6 : 保護者 326 人、児童 348 人))

(c) 研究・研修、学園内連携

園内研修では、具体的な保育実践や子どもの姿をもとに全教職員で語り合う対話型の研修を実施しました。立場や経験に関わらず保育観や意図を共有し合うことで、教職員間に「仲間」としての意識や一体感が生まれました。また、幼小接続（架け橋プログラム）に向けて、小学校との連携（学校探検、5 年生との交流会等）を積極的に実施しました。

実習指導としては、富山短期大学幼児教育学科 72 名の学生が各 9 日間の観察・参加実習を行い、個々の学生に応じた丁寧な指導に努めました。夏季保育や行事ボランティアにも多数の学生の参加を得て、相互の学びとなりました。富山国際大学とは「保育サポーター」の派遣や教員の研究協力等で連携を深めています。また、中学生の「14 歳の挑戦」の受け入れを通じて、多様な世代との関わりを持ちました。

(2) 中期的な計画及び事業計画の進捗・達成状況

学園将来構想を踏まえた令和 6 年度～10 年度までを計画期間とする学園中期事業計画により、私立学校法改正等への対応や急速に進行する少子化、財務基盤の悪化、AI・IT が社会経済に及ぼす影響に対応し、学園の持続可能な運営を推進してまいります。

### 3 財務の概要

#### (1) 決算の概要

##### ① 貸借対照表関係

##### i 貸借対照表の状況と経年比較

総資産額は、13,608百万円と前年度に比べ144百万円の減少、負債総額は1,367百万円で前年度に比べ156百万円の増加となりました。

総資産額の減少は、有形固定資産の減少によるもので、また、負債総額の増加は、新たに賞与引当金を計上したこと等の流動負債の増加によるものです。

(単位：千円)

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
固定資産	12,636,119	12,728,672	12,687,957	12,490,403	12,241,418
流動資産	1,185,794	1,231,824	1,146,500	1,261,675	1,366,703
資産の部合計	13,821,913	13,960,496	13,834,457	13,752,078	13,608,121
固定負債	569,943	615,110	618,334	625,787	624,322
流動負債	635,512	635,230	555,992	585,723	742,860
負債の部合計	1,205,455	1,250,340	1,174,326	1,211,510	1,367,182
基本金	14,900,418	14,951,762	14,981,120	15,116,648	15,176,917
繰越収支差額	△ 2,283,960	△ 2,241,606	△ 2,320,989	△ 2,576,079	△ 2,935,978
純資産の部合計	12,616,458	12,710,156	12,660,131	12,540,569	12,240,939
負債の部及び純資産の部合計	13,821,913	13,960,496	13,834,457	13,752,079	13,608,121

##### ii 財務比率の経年変化

流動比率は、約180%から約200%程度で推移しており、短期的な返済力には支障がない水準にあります。

積立率は、令和7年度末で75.3%と前年度に比べ減少しました。運用資産の充実に努めていく必要があります。

(単位：年・%)

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
運用資産余裕比率(年)	2.3	2.3	2.4	2.3	2.2
流動比率	186.6	193.9	206.2	215.4	184.0
総負債比率	8.7	9.0	8.5	8.8	10.0
前受金保有率	230.4	260.0	258.8	286.4	310.7
基本金比率	100.0	99.6	99.7	99.8	99.9
積立率	78.7	82.8	85.0	76.6	75.3

② 資金収支計算書書類関係

i 資金収支計算書の状況と経年比較

当年度の資金収入総額及び支出総額は、3,885百万円と前年度に比べ164百万円の増加となりました。

(単位：千円)

収入の部	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
学生生徒等納付金収入	1,995,554	1,983,366	1,903,274	1,799,894	1,742,638
手数料収入	37,721	33,926	32,396	28,839	28,813
寄付金収入	3,885	16,820	1,960	1,424	3,200
補助金収入	607,395	639,553	685,224	764,650	839,985
資産売却収入	0	0	0	0	0
付随事業・収益事業収入	23,658	22,169	21,758	30,313	37,199
受取利息・配当金収入	1,758	1,359	1,033	3,479	15,393
雑収入	57,229	126,247	51,495	102,119	95,602
借入金等収入	0	0	0	0	0
前受金収入	460,960	417,325	405,660	380,580	384,820
その他の収入	117,081	133,584	145,230	108,230	166,327
資金収入調整勘定	△ 533,384	△ 579,568	△ 487,091	△ 547,819	△ 518,176
前年度繰越支払資金	940,047	1,062,118	1,085,116	1,049,835	1,089,846
収入の部合計	3,711,904	3,856,899	3,846,055	3,721,544	3,885,647

支出の部	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
人件費支出	1,598,660	1,695,877	1,620,719	1,740,911	1,738,971
教育研究費支出	534,433	584,020	631,553	625,861	713,538
管理経費支出	125,345	134,138	151,723	154,079	154,152
借入金等利息支出	0	0	0	0	0
借入金等返済支出	0	0	0	0	0
施設関係支出	25,376	16,496	1,262	33,050	993
設備関係支出	32,226	87,905	72,898	60,324	53,736
資産運用支出	339,770	339,151	237,249	54,176	32,064
その他の支出	79,645	113,698	158,504	91,495	154,629
資金支出調整勘定	△ 85,669	△ 199,502	△ 77,688	△ 128,198	△ 158,116
翌年度繰越支払資金	1,062,118	1,085,116	1,049,835	1,089,846	1,195,680
支出の部合計	3,711,904	3,856,899	3,846,055	3,721,544	3,885,647

ii 活動区分資金収支計算書の状況と経年比較

教育活動資金収支差額は、169百万円と前年度と比べ黒字幅が26百万円の増加となりましたが、これは、期末未収入金の減少及び期末未払金の増加に伴う調整勘定が増加したことなどによるものです。

施設整備等活動資金収支差額は、△55百万円と赤字幅が前年度に比べ38百万円の減少となりました。

その他の活動資金収支差額は、△8百万円と前年度に比べ赤字幅が2百万円減少しましたが、これは特定資産への繰入額の減少などによるものです。

支払資金は、年度当初の1,090百万円から年度末には1,195百万円と105百万円増加しております。

(単位：千円)

科 目	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
教育活動による資金収支					
教育活動資金収入計	2,723,534	2,821,452	2,695,444	2,724,764	2,746,647
教育活動資金支出計	2,258,388	2,413,507	2,403,996	2,520,845	2,606,397
差 引	465,146	407,945	291,448	203,919	140,250
調整勘定等	12,922	24,298	△ 40,606	△ 60,770	28,713
教育活動資金収支差額	478,068	432,243	250,842	143,149	168,963
施設整備等活動による資金収支					
施設整備等活動資金収入計	1,687	295	407	702	702
施設整備等活動資金支出計	57,602	104,401	74,160	93,374	54,729
差 引	△ 55,915	△ 104,106	△ 73,753	△ 92,672	△ 54,027
調整勘定等	0	0	0	0	△ 1,032
施設整備等活動資金収支差額	△ 55,915	△ 104,106	△ 73,753	△ 92,672	△ 55,059
小 計(※1)	422,153	328,137	177,089	50,477	113,904
その他の活動による資金収支					
その他の活動資金収入計	12,525	61,649	27,911	43,715	40,873
その他の活動資金支出計	312,608	366,787	240,281	54,181	48,943
差 引	△ 300,083	△ 305,138	△ 212,370	△ 10,466	△ 8,070
調整勘定等	0	0	0	0	
その他の活動資金収支差額	△ 300,083	△ 305,138	△ 212,370	△ 10,466	△ 8,070
支払資金の増減額(※2)	122,070	22,999	△ 35,281	40,011	105,834
前年度繰越支払資金	940,047	1,062,117	1,085,116	1,049,835	1,089,846
翌年度繰越支払資金	1,062,117	1,085,116	1,049,835	1,089,846	1,195,680

※1 教育活動資金収支差額及び施設整備等活動収支差額の合計額を示す。

※2 小計(※1)及びその他の活動資金収支差額の合計額を示す。

iii 財務比率の経年比較

(単位：%)

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
教育活動資金収支差額比率	17.6	15.3	9.3	5.3	6.2

③ 事業活動収支計算書関係

i 事業活動収支計算書の状況と経年比較

当年度収支は、学納金の減少、特別支出の増加などにより、前年度の255百万円の赤字から360百万円の赤字となりました。

(単位：千円)

科 目		令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
教育活動収支	事業活動収入の部					
	学生生徒等納付金	1,995,554	1,983,366	1,903,274	1,799,894	1,742,638
	手 数 料	37,721	33,926	32,396	28,839	28,813
	寄 付 金	4,279	17,140	2,296	2,340	3,324
	経常費等補助金	605,708	639,259	684,818	763,948	839,283
	付随事業収入	23,658	22,169	21,758	30,312	37,199
	雑 収 入	63,489	137,756	65,003	123,936	96,500
	教育活動収入計	2,730,409	2,833,616	2,709,545	2,749,269	2,747,757
	事業活動支出の部					
	人 件 費	1,606,915	1,710,986	1,648,709	1,782,967	1,760,680
	教育研究経費	854,541	898,781	952,560	935,009	1,024,052
	管 理 経 費	129,917	137,927	155,064	159,296	158,718
	徴収不能額等	0	0	0	0	0
	教育活動支出計	2,591,373	2,747,694	2,756,333	2,877,272	2,943,450
教育活動収支差額	139,036	85,922	△ 46,788	△ 128,003	△ 195,693	
教育活動外収支	事業活動収入の部					
	受取利息・配当金	1,758	1,359	1,033	3,479	15,393
	その他の教育活動外収入	0	0	0	0	0
	教育活動外収入計	1,758	1,359	1,033	3,479	15,393
	事業活動支出の部					
	借入金等利息	0	0	0	0	0
	その他の教育活動外支出	0	0	0	0	0
教育活動外支出計	0	0	0	0	0	
教育活動外収支差額	1,758	1,359	1,033	3,479	15,393	
経 常 収 支 差 額	140,794	87,281	△ 45,755	△ 124,524	△ 180,300	
特別収支	事業活動収入の部					
	資産売却差額	0	0	0	0	0
	その他の特別収入	11,363	12,234	6,074	10,571	9,419
	特 別 収 入 計	11,363	12,234	6,074	10,571	9,419
	事業活動支出の部					
	資産処分差額	2,357	5,289	10,343	5,605	5,554
	その他の特別支出	50	529	0	5	123,194
	特 別 支 出 計	2,407	5,818	10,343	5,610	128,748
	特 別 収 支 差 額	8,956	6,416	△ 4,269	4,961	△ 119,329
	基本金組入前当年度収支差額	149,750	93,697	△ 50,024	△ 119,563	△ 299,629
基本金組入額合計	△ 52,894	△ 51,344	△ 29,358	△ 135,527	△ 60,270	
当年度収支差額	96,856	42,353	△ 79,382	△ 255,090	△ 359,899	
前年度繰越収支差額	△ 2,383,816	△ 2,283,960	△ 2,241,607	△ 2,320,989	△ 2,576,079	
基本金取崩額	3,000	0	0	0	0	
翌年度繰越収支差額	△ 2,283,960	△ 2,241,607	△ 2,320,989	△ 2,576,079	△ 2,935,978	
(参考)						
事業活動収入計	2,743,530	2,847,209	2,716,652	2,763,319	2,772,569	
事業活動支出計	2,593,780	2,753,512	2,766,676	2,882,882	3,072,198	

ii 財務比率の経年比較

人件費比率は、約63.7%とやや高い水準です。

教育研究経費比率は、30%台で推移しており、教育研究活動の維持に必要な水準は確保されています。

事業活動収支差額比率及び経常収支差額比率は、学生生徒納付金の大幅な減少等により事業活動収入、経常収入が減少したため、前年度に比べ、それぞれ6%及び3%程度減少しています。

(単位：%)

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
人件費比率	58.8	60.4	60.8	64.8	63.7
教育研究経費比率	31.3	31.7	35.1	34.0	37.1
管理経費比率	4.8	4.9	5.7	5.8	5.7
事業活動収支差額比率	5.5	3.3	-1.8	-4.3	-10.8
学生生徒等納付金比率	73.0	70.0	70.2	65.4	63.1
経常収支差額比率	5.2	3.1	-1.7	-4.5	-6.5

(2) その他

① 有価証券の状況

(単位：千円)

種 類	貸借対照表上計上額	時 価	差 額
出 資 金	5	5	0

② 借入金の状況

借 入 先	期末残高	利率	返 済 期 限
<該当なし>			

③ 学校債の状況

発 行 年 度	期末残高	利率	償 還 期 限
<該当なし>			

④ 寄附金の状況

(単位：千円)

寄附金の種類	寄 付 者	金 額	摘 要
一 般 寄 付 金	個人・企業	134	教育研究等資金として
特 別 寄 付 金	企業等	3,066	寄附講座資金として
現 物 寄 付 金	高校卒業記念等	8,753	美術品等
合 計		11,953	

⑤ 補助金の状況

各設置校の補助金の交付状況は次のとおりです。

(単位：千円)

補助金の種類	国際大学	富山短大	付属高校	幼稚園	合 計
国 庫 補 助 金	231,319	148,390	5,000	0	384,709
地方公共団体等補助金	3,419	2,854	346,205	102,798	455,276
合 計	234,738	151,244	351,205	102,798	839,985

- ⑥ 収益事業の状況  
  - <該当なし>
  
- ⑦ 関連当事者等との取引の状況
  - i 関連当事者 <該当なし>
  - ii 出資会社 <該当なし>
  
- ⑧ 学校法人間財務取引 <該当なし>

**(3) 経営状況の分析、経営上の成果と課題、今後の方針・対応方策**

学園全体の当年度収支は、前年度に比べ学生生徒納付金の減少等により、3年連続の赤字となりました。

財務比率をみると、事業活動収支差額比率及び経常収支差額比率は、学生生徒納付金の減少により前年度に比べ低下しており、全国平均値を下回っております。また、積立率は、令和7年度末で75.3%と前年度に比べ減少し、今後も運用資産の充実に努めていく必要があります。なお、流動比率は、約180～215%程度で推移しており、短期的な返済力には支障のない水準にあります。

今後、教育研究活動の維持・向上のためには、人件費比率を低減させるとともに、教育研究経費比率を高めていく必要があります。また、大学及び短大施設の老朽化の進展を踏まえると、今後、改築又は修繕・改修費の増高が見込まれることから、引き続き、学生確保に積極的に取り組むなど、収益性をさらに高めるとともに、運用資産の充実に図り経営の安定性を高めていく必要があります。

#### 4 学校法人の業務の適正を確保するための体制（内部統制システム）の整備及び運用状況の概要

学校法人富山国際学園(以下「本法人」という。)は、理事の職務執行が法令・寄附行為に適合すること及び業務の適正を確保するための体制に関して、本法人の基本方針を以下のとおり制定し、整備及び運用しております。

##### (1) 経営に関する管理体制

- ① 寄附行為及び本学ガバナンスコードに基づき理事会及び評議員会の役割を明確化し適切な運営を行う。
- ② 職務分掌・決裁権限を明確にし、理事、職員等の職務執行の適正性を確保し、機動的な業務執行と有効性・効率性を高める。
- ③ 理事会、評議員会等の議事録、理事長の職務執行に係る情報については、寄附行為及び文書取扱規程に基づき、適切に作成、保存及び管理する。
- ④ 業務執行機関からの独立性を有する内部監査部門を必要に応じて設置し、業務の適正及び効率性を確保するため、業務を執行する各部の職務執行状況等を定期的に監査する。

##### (2) リスク管理に関する体制

- ① 危機管理規程及び本学ガバナンスコードに基づき、危機管理体制の整備と危機管理マニュアルの整備に取り組む。
- ② 個人情報保護に関する規程に基づき、個人情報の保護と適切な管理を行う。
- ③ 事業活動に関するリスクについては、法令及び本法人の諸規程に基づき、職務執行部署が自律的に管理することを基本とする。
- ④ 本法人の経営に重大な影響を及ぼすおそれのある重要なリスクについては、理事会に報告のうえ審議し、必要に応じて対策等の必要な事項を決定する。
- ⑤ 災害、事故その他の緊急時に備え、対応組織や情報連絡体制等について定めるとともに、継続的な教育と定期的な訓練を実施する。
- ⑥ 研究活動について、研究費の適正経理、研究不正の防止及び知的財産の保護を確保するため、研究活動における不正行為の防止等に関する規程に基づき必要な措置を講ずる。

##### (3) コンプライアンスに関する管理体制

- ① 本法人のすべての役職員のコンプライアンス意識の醸成と定着を推進するため、不正防止等に関わる役職員の教育及び啓発活動を継続して実施、周知徹底を図る。
- ② 本法人の内外から匿名相談できる通報窓口を常設して、不正の未然防止を図るとともに、速やかな調査を行う体制を推進する。通報窓口又は監事に対しコンプライアンスに関する相談又は違反を通報したことを理由に、不利益な取り扱いは行わない。
- ③ 内部監査部門は、職員等の職務執行状況について、コンプライアンスの観点から監査し、必要に応じてその結果を理事会に報告する。理事等は、当該監査結果を踏まえ、所要の改善を図る。
- ④ 法令・寄附行為違反等の重大な非違行為等が発見された場合には、理事会において迅速に状況を把握するとともに、外部専門家のサポートも仰ぎながら適正に対応する。

##### (4) 監査環境の整備(監事の監査業務の適正化を確保するための体制)

- ① 監事は、監事監査規程に基づき、公平不偏の立場で監事監査を行う。
- ② 監事は、理事会、評議員会等への出席並びに重要書類の閲覧、審査及び質問等を通して、理

事等の職務執行についての適法性、妥当性に関する監査を行う。

- ③ 監事は、理事会が決定する内部統制システム整備について、その決議及び決定内容の適正性について監査を行う。
- ④ 監事は、重要な書類及び情報について、その整備・保存・管理及び開示の状況など、情報保存管理体制及び情報開示体制の監査を行う。
- ⑤ 監事の職務を補助するものとして、監事の求めに応じ、できる範囲で独立性を有する補助職員の一時的配置や理事会等への陪席などの措置を行う。
- ⑥ 理事又は職員等は、本法人に著しい損害を与えるおそれのある事実又は法令、寄附行為その他の規程に反する行為を発見したときは、直ちに理事長並びに監事に報告する。
- ⑦ 理事及び職員等は、職務執行状況等について、監事が報告を求めた場合には、速やかにこれに応じる。
- ⑧ 理事長は、直接又は職員に指示して定期的に監事と会合を持つなど事業の遂行と活動の健全な発展に向けて意見交換を図り相互認識を深める。
- ⑨ 監事はその職務の執行について生ずる費用の前払い若しくは支出した費用の償還又は負担した債務の弁済を請求した場合は、本法人で内容を確認の上速やかに支払う。

#### (5) 本方針の改廃

本方針に見直しの必要性が生じた場合は、理事会の決議により改正するものとする。

## 附属明細書

### 1 事業報告書の内容を補足する重要な事項

特になし

## 役員等一覧

(令和8年3月31日現在)

## 1 役員

区分	氏名	就任年月日	常勤・非常勤	主な現職等
理事長	金岡克己	理事 平成27年 9月17日 理事長 平成29年 6月 1日	非常勤	(株)スカイインテック特別参与
理事	五十里栄	理事 令和 7年 4月16日	常勤	学園本部事務局長
理事	高木利久	令和元年 7月 1日	常勤	富山国際大学学長、富山短期大学学長
理事	中川修	令和 7年 4月16日	常勤	富山国際大学附属高等学校校長
理事	水口昭一郎	平成26年 4月 1日	非常勤	立山科学(株)代表取締役会長
理事	山地清	平成26年 4月 1日	非常勤	富山信用金庫会長
理事	若林啓介	平成28年 5月31日	非常勤	紙ぷらす(株)代表取締役会長
理事	藤井久丈	平成29年 4月 1日	非常勤	医療法人社団藤聖会理事長
監事	渡辺光	令和 6年 6月27日	非常勤	舟橋村長
監事	大橋豊	令和 4年 6月27日	非常勤	富山県商工会議所連合会常任理事・事務局長
監事	寺山収	令和 7年 6月30日	非常勤	一般社団法人富山県経営者協会 専務理事

## 2 評議員

氏名	就任年月日	主な現職等
高野愛	平成28年11月30日	富山国際大学卒業生
安川和子	平成 2年11月 9日	富山短期大学卒業生
梶野三保	令和 3年 3月29日	富山国際大学附属高等学校卒業生
金岡純二	平成 5年 9月 8日	(株)富山第一銀行常勤相談役
岩田繁子	平成18年 5月31日	富山県婦人会長
深田均	令和 4年 4月 1日	老田地区自治振興会長
梅田ひろ美	平成26年 4月 1日	(株)ユニゾーン代表取締役会長
蔵堀祐一	令和 3年 5月25日	富山県副知事
西田政司	令和 6年 4月 1日	富山市副市長
林原泰彦	令和 7年12月8日	富山国際大学後援会長
高田敏暁	令和 7年12月8日	富山短期大学後援会長
笠原宏司	令和 7年 6月30日	富山国際大学附属高等学校PTA会長
佐藤悦夫	令和 7年 3月25日	富山国際大学現代社会学部教授
宮田徹	令和 6年 4月 1日	富山短期大学附属みどり野幼稚園長
藤本治男	令和 7年 3月25日	学園本部事務局次長

## I 富山国際大学

### 1 卒業認定・学位授与の方針

富山国際大学（以下、「本学」という。）は、「共存・共生の精神と知性を磨く教育を基本に、時代の潮流に対応できる、健全にして個性豊かな人材を育成して、国際社会及び地域社会の発展に寄与する」ことを、基本理念に掲げている。

このような基本理念を踏まえて、所属学部の教育課程所定の単位を修得したうえで、以下のような資質・能力を身につけることを目標とする。

各学部の卒業認定・学位授与の方針は、この全学の方針を踏まえて定める。

#### ・人間性の向上（DP1）

共存・共生の精神のもと時代の潮流に対応できるよう、人間として必要な知識や教養、思考力・表現力、倫理観を身につける。

#### ・専門性の向上（DP2）

各学部のそれぞれの教育目標に基づき、講義、演習、実習を通して、専門分野に関わる基本的知識・技能や知的学識を習得し、専門的素養を身につける。

#### ・社会性の向上（DP3）

大学内外での学修を通じて、人々と協力して課題などを解決できる、社会性を持ち自立した人間になったと実感できる力を身につける。

### 2 教育課程編成・実施の方針

卒業認定・学位授与の方針に基づき、教養科目、専門科目を体系的に編成して、講義、演習、実習科目等を適切に配置し、効果的な授業の実施を図る。

(1) 教養科目に、共存・共生の時代において時代の潮流に対応できる人材の育成を図るために、「人間理解」「社会理解」「国際化・情報化対応」「キャリア系」「教養演習」等の科目群を設ける。

(2) 各学部の専門科目を、学部や専攻の専門分野の修得に適した科目群に分け、体系的に授業科目を配置する。

(3) 社会的及び職業的自立を図るために必要な能力を培うために、教養科目の中に「キャリア科目群」を設ける。また、重点的に育成する全学共通の基礎的・汎用的能力として、コミュニケーション能力、協働力、課題解決力を設定し、これらの能力の向上を図るため、各授業科目でどの能力を伸ばすかをシラバスで明示する。

各学部の教育課程編成・実施の方針は、この全学の教育課程編成・実施の方針及び各学部の卒業認定・学位授与の方針に基づき、定めることとし、各授業科目が卒業認定・学位授与の方針に定められたどの能力・素養の向上に寄与するかをシラバスで明示する。

授業の実施にあたっては、対話型授業、演習・反復型授業、グループ学習、地域フィールドワーク、授業外学習指導や自主学習等、多様な教育方法による効果的学びを採り入れることとし、各授業科目でどのような教育方法を採用するかをシラバスで明示する。

### 3 入学者の受け入れ方針

#### ・富山国際大学の教育理念・目標

富山国際大学では、「共存・共生の精神と知性を磨き、健全にして個性豊かな人格を形成することを基本的な教育理念として、国際化、情報化、少子高齢化、環境との共生の時代において、国際社会及び地域社会の発展に貢献できる人間を育成する」ことを教育目標としています。

このような人材を育成するために、次のような入学者を求めています。

・求める人物像

- ① 大学教育を受けるにふさわしい基礎学力を有し、学ぶ意欲および目的意識を持つ人
- ② 知性、教養を身に付け、個性豊かな人間をめざし、自己を高める努力をする人
- ③ 国際社会や地域社会の発展に貢献できるよう、専門的・実践的な知識や技術の取得に意欲を持つ人

## II 富山短期大学

### 1 卒業認定・学位授与の方針

富山短期大学は建学の精神・教育理念に基づいて、「高い知性と広い教養と健全にして豊かな個性をもった地域社会の発展に貢献する人材」の育成、すなわち全人的な人間育成をめざし、次の5つの力を身につけることを全学的な教育目標としています。

- ① 実践の土台となる「専門的知識・技能」
- ② 実践を支える「思考力・判断力・表現力」
- ③ 生涯学び続け成長するための「主体的に学ぶ力」
- ④ 他者を尊重し、多様な人々と共に共通の目標の実現に貢献できる「協働力」
- ⑤ 健全で豊かな「人間性」

これらを踏まえて、各学科がそれぞれの教育目的に応じて定める卒業認定・学位授与の方針に示す学修成果を修得し、本学の卒業要件を満たした人に短期大学士の学位を授与します。専攻科においては、専攻科修了認定方針に示す学修成果を修得し、所定の修了要件を満たした人の修了を認定します。

### 2 教育課程編成・実施の方針

富山短期大学がめざす人材を育成するために、本学の教育理念に沿って、各学科・専攻科がそれぞれの教育目的・目標に基づく学修成果の達成に必要な教育課程を体系的・系統的に編成し実施します。

教育課程の体系をわかりやすく示すために、科目間の連携や系統性を示すナンバリングを行い、併せて科目系統図を示します。

さらに、各授業科目の学修成果と、学位プログラム全体・各学期の学修成果との関連をわかりやすく示すために、カリキュラムマップを作成し提示します。

教育内容、教育方法・学修方法、評価については以下のように定めます。

#### (1) 教育内容

2年間を通じて、各学科の教育課程の体系性に基づき、系統立てて必修科目、選択科目を適切に配置し教育を実施します。

#### (2) 教育方法・学修方法

卒業認定・学位授与の方針に掲げる身につけるべき「5つの力」（「専門的知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体的に学ぶ力」、「協働力」、「人間性」）育成のために、各学年・各学期に講義、演習、実習・実験・実技を適切に配列するとともに、すべての教科目においてアクティブ・ラーニングを取り入れた授業の展開に努めます。

学生の「振り返り（リフレクション）」を促し、「主体的学び」へのモチベーションを高めるために、各種試験や課題・レポート、アンケート結果等を学期中にフィードバックする等の形成的評価に努めます。

#### (3) 評価

本学では、卒業認定・学位授与の方針に掲げる学修成果の修得状況を、「学生個人」、「学科」、「大学」の3つのレベルで把握し、多面的・総合的に評価して、授業改善、学生の個別

学習指導、ひいては教学の改善に役立てるとともに、対外的に教育の質保証を担保し、説明責任を果たすための可視化に努めます。

各授業科目の成績評価については、シラバスに示された学修成果別評価基準（ルーブリック）に沿って、学修成果の5つの基準（LO1：知識・理解、LO2：技能、LO3：思考力・表現力、LO4：関心・意欲・態度、LO5：人間性・社会性）別に、多様な手段と方法により、多面的・総合的かつ厳正に行うことを基本とします。

「学生個人」のレベルでは、各授業科目における学修成果基準別成績評価を累計して、学修成果基準別ならびに学修成果全体の実現・達成状況を確認するとともに、学期ごと及び累積のGPAを算出し、総合成績評価を行います。加えて、毎学期末の授業アンケートによる当該授業科目に関する学修成果基準別到達度、1年次入学時と卒業時に実施する学修行動・生活調査による学修成果基準別資質・能力の成長度を集計し、学生個人の学修成果の修得状況を多面的・総合的に評価します。

「学科」レベルの学修成果は、上記の「学生個人」レベルの学修成果の修得状況を集計して、多面的・総合的に評価します。

「大学」レベルの学修成果は、上記の「学科」レベルの学修成果の修得状況を集計して、多面的・総合的に評価します。

### 3 入学者受入れの方針

富山短期大学は、昭和38年、富山女子短期大学として創立以来、「高い知性と広い教養、健全にして豊かな個性を備えた人材の育成」を教育理念としてきました。

地域社会への貢献を社会的使命とする本学では、時代の要請に応えるべく、各分野でのスペシャリストの養成をめざしています。

この教育理念・教育目標に基づき、本学では、卒業認定・学位授与の方針に定める人材を、教育課程編成・実施の方針に則って育成するために、次のような人の入学を希望します。

- ・大学教育を受けるにふさわしい基礎的な知識、思考力・判断力・表現力を有している人
- ・知性、教養を身につけ、個性豊かな人間をめざし、主体性をもって自己を高める努力をする人
- ・積極的に他者との関わりをもち、地域社会の発展に貢献する意欲を持つ人

本学では、このような入学者を適正に選抜するために、多様な入試方法を実施し、本学が求める資質・能力を多面的・総合的に評価します。